今回は仙結節靭帯と腰痛について
お話しをしていきたいと思います。

仙結節靭帯というのは、
あまり馴染みがないかもしれません。

足の方から見ていて
ハムストリングの起始部で
坐骨結節がありますけども、

そのすぐ近くを走行している
靭帯になります。

この靭帯は受容器反応によって
骨盤変位が良くなったりします。

こういった骨盤変位かと言いますと、
例えば、立位で右側の股関節を屈曲させると
回旋したような状態になります。

こういった状態の時に、
仙結節靭帯にアプローチをすることで
変位が戻っていくことがわかっております。

それだけでテクニックを使われている
作られている方もいらっしゃいます。

特に、欧米で有名なカイロプラクターが作った
テクニックの一つが仙結節靭帯に対する
テクニックになります。

ちなみにこの靭帯が短縮すれば、
仙骨を後傾させます。

例えば、左側の靭帯に機能異常があれば、
仙骨は左斜軸で右仙骨底が後傾し、

左仙骨尖外側が前傾するといった具合です。

その結果、
仙骨単体で変位を考えると、
後傾・右回旋という変位になります。

このアライメントでは、
骨盤底筋群が活動しづらい状況ですので、
女性であれば生殖器系の機能障害を
生じるかもしれません。

また、男性においても、
インポテンツなどの機能障害を
生じる要因に仙骨アライメントが
関係してくるわけです。

そういえば、只野先生が、
以前何かの動画でインポテンツには
梨状筋が関係すると言われていました。

その梨状筋の機能異常にも
この仙骨変位というのは
関係してきますね。

そんな、
骨盤周囲の様々な問題にも関わるのが、
この靭帯ですのでぜひ手技をひとつは
知っておいて損はありませんね。

勉強してみてください。